

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 24 年 7 月 27 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470204763
法人名	株式会社 ハーモニー
事業所名	グループホーム ハーモニー広島西
所在地	広島市佐伯区八幡東4丁目26-11 (電話) 082-926-4688
自己評価作成日	平成 24 年 7 月 10 日
評価結果市町受理日	平成 年 月 日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先UR	
------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOインタッチサービス広島
所在地	広島市東区福田1丁目167番地
訪問調査日	平成 24年 7月25日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

「優しい気持ち」と「ほほえみ」を理念として、入居者様と御家族に安心していただけるように日々工夫と努力をしています。毎食各ユニットで食事の準備を行っているので、調理中の音やにおいがして生活感があります。隣に小学校があり、子どもたちの声が日常的に聞こえ、行事の際には立ち寄らせてもらったりしています。近くの川沿いが散歩道になっておりスーパーもあるので気候の良い時季は、散歩や買い物にも出かけてます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

○小学校に隣接し、近くには、川沿いに遊歩道、保育園、公民館、スーパー等があり、生活し易い環境に位置している。
○「ほほえみ」「優しい気持ち」の理念が、日々のケア活動で実践され利用者は、穏やかに、ゆったり過ごす事ができている。
○日課として、三度の食事が手作りされていて、利用者もできることを一緒に行っている。調理の音やにおいなど生活感があり、家庭的な雰囲気である。
○高齢者医療と介護の「ほほえみグループ」の一事業所であり連携運営されている。認知症専門医、内科医の往診、医療デイケアの利用など、医療面でも安心する事ができる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「いつもほほえみを」の理念を、管理者・職員同士で共有しあい、入居者さんが安心して笑顔で過ごせるように努めています。	「障害のある人とその家族にほほえみを」「優しい気持ち」を理念として二階の入口に掲示するとともに、毎日朝礼で唱和し、職員間で共有し日々のケア活動に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	公民館や小学校で行われている行事を見学、地域の保育園と交流したり、ボランティアの受け入れ等、行っている。	小学校、保育園との交流や公民館活動のボランティアの受け入れ、地域包括と公民館で主催する介護オープンスペースへの参加、買い物や散歩時の挨拶などを通じて地域との交流を図っている。町内会に加入していない。	町内会に加入して、地域住民との交流を更に深められる事が望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	入居者さんと外出したり、ほほえみ新聞の送付を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議では、近況報告など行い、家族・利用者の意見を参考にしてサービス向上に活かしている。	二ヶ月毎に開催されている。事業所行事と同時に開催される事もある。出席者は利用者、ご家族、地主、地域包括支援センター職員、民生委員、職員である。事業所の現況報告、行事報告等を中心に幅広く話し合いを行ない、出席者の意見を参考に、サービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	市区の実施する勉強会に参加したり、担当の地域包括の方と連絡をとることにより連携を取るよう心がけています。	市・区の担当者、地域包括支援センター職員とは積極的に連携をとり協力関係を築いている。市や区の実施する勉強会に参加すると共に、三和地域ネットワークに加入し、勉強会や相互交流を図り介護の質の向上に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ミーティングなどで話し合い、身体拘束になる行為を再確認し、ケアに取り組んでいるが事故防止の為に1階玄関の鍵は施錠している。	新人研修で身体拘束について勉強している。ミーティングでも年1～2回話し合い、正しい知識の再確認を行ない、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。二階各ユニットの入口は開放されているが、一階玄関は事故防止のため、家族の了解を得て施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修や勉強会などで学んだ知識を職員間で共有し合い、防止に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	資料などの回覧を行っています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図るよう心がけています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族間での連絡ノートを作成したり、部屋担当が毎月手紙や写真を送り、意見・要望を言いやすい関係を作っている。	部屋担当を決め、意見や要望が言い易いように配慮している。ご家族の面会時にはお茶を出し、近況報告を行っている。運営推進会議に利用者をご家族に参加頂いたり、相談窓口を明記して意見を外部へ表せる機会も設けている。出された意見は充分検討して運営に反映されている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	事業所での定期的なミーティングや個別の意見として出た提案について、検討し反映できるよう心がけています。	職員は定期的ミーティングや、個別に直接管理者に意見を伝える。管理者は、毎月の管理者会議で代表者に意見や提案を伝えている。代表者は検討して運営に反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は、週に1回事業所に立ち寄り事業所の状況を確認し職場環境・条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握するよう努め、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくこと進めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていくことを進めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	主に本人との会話に努める、又行動を観察する事で困っていること、不安なことや要望などに耳を傾けながら関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	電話や面談により、御家族などが困っていること、不安に思っていること、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	最初の相談時、施設などへの入居が必要な時期かどうか・「その時」必要としている支援は何かについて検討し、他のサービス利用も含めた提案を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	本人が主体的に行動できるように心がけ、職員・他入居者の方と生活していると思えるように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族の意向を聞き、本人にあったケアを検討したり、外泊・外出をして頂き家族と本人の絆を大切にしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	長年通い続けた場所に継続して通えるよう、家族と話し合い支援に努めています。	ご家族や友人の訪問時には、お茶を出してくつろいで過ごしてもらえるように努めている。長年通いなれた教会へ通われる人、外泊される人、墓参りされる人などについて、帰宅時間や食事などに配慮し関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者さん同士の関係を把握し、気の合う同士が関わり合えるよう席替え等、孤立しないように配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	本人・家族からの要請があれば支援出来るように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者や家族から、思いや希望を把握し、本人にあった暮らし方ができるよう努めています。	入居時の面接記録、基本情報、医療情報などを元に利用者やご家族と話し合いを行ない、希望や意向の把握に努めている。入居後のケア始動の中から得た情報は連絡ノートや行動記録に記入し全職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族から情報を得たり、本人とコミュニケーションをとり、馴染みの暮らし方などを把握するように努め、得た情報を職員間で共有するようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一日の過ごし方・心身状態の変化などを行動記録にとり、現状の把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人がよりよく暮らすための課題とケアのありかたについて、本人・家族・主治医・看護師と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成しています。	職員2名で3名の利用者を担当し、毎月のミーティングで3名ずつ取り上げ、生活支援計画書を基に話し合い評価を行う。他の利用者の様子もミーティングで話し合い記録に残している。利用者、ご家族、主治医や看護師の意見を取り入れて、6ヶ月で見直しを行い現状に即した計画を作成している。状態の変化時にも見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	実際の声かけと応答などを個別記録に記入し、連絡ノート・業務日誌などで職員間でじょうほうを共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	現状ではグループホームで可能なサービス以外で具体的なサービスは行なっていません。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	月に一度公民館で行われているふれあいの場に参加して楽しむことができるように支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人・家族の希望に沿い、今までのかかりつけ医に継続して診てもらえるようしたり、毎週来る往診医に診てもらえるように支援し、納得が得られるように努めています。	毎週1回認知症専門医と内科医の往診が行われている。家族の希望する、かかりつけ医の支援も行っている。家族が都合の悪い時は職員が同行している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	往診診療所・併設施設の看護師に必要な応じて相談し、助言を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院必要時の主治医への相談や入院時には御家族を通して情報交換を行うように心がけています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、グループ内事業所と共にチームで支援に取り組むように心がけていますが、今後より具体的にしていける必要があります。	入居時に事業所として出来る事、出来ない事を明確に伝えている。早い段階より本人、家族と話し合いを行ない方針を決め、共有している。グループ内事業所と連携して、出来るだけの支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	応急救護の研修などにより身につけるようにしていますが、不十分な所もあります。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築くように心がけています。	利用者も一緒に避難訓練を実施し、避難経路や避難場所の確認を行っている。消防署の研修に2名が参加している。自動火災通報装置やスプリンクラーが設置されている。	職員と地域住民による災害時、協力体制を更に具体化していくことが臨まれる。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	言葉かけに注意しています。記録などは他の人に見えないように気をつけています。	法人グループ内で接遇マナーについて、勉強会を行っている。プライドやプライバシーに配慮した声かけや対応を行っている。職員同士でお互いに注意しあうようにしている。個人の記録類は施錠出来る戸棚に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	できる限り本人の意思を尊重し自己決定できるように心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりペースに合わせ、できる限り希望に添えるようその日の業務を変更する等もあります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	衣類・化粧については本人ができるように支援しています。本人の希望に合わせてパーマやカラーもされています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	品数を多くしたり、利用者の好みの物を取り入れたり、行事に合わせたメニューを提供している。できる方には一緒に買い物にてたり準備をしている。	毎日3食手作りされている。買物から準備、後片付けまで利用者も出来る事を共に行なっている。好みのものを取り入れたり、品数を多くするなど工夫している。行事に合わせた特別メニューもある。職員も利用者と一緒に同じ食事を取り、楽しいひと時となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	なるべく多くの食材を使ったり、一人ひとりに合わせた食事量や形態にしている。水分摂取が増えるよう好みの飲物など提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアを行っています。本人のペースに合わせて声かけをしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンに合わせてトイレ誘導を行ったり、習慣を把握し声かけしたりし、トイレでの排泄ができるように支援しています。	排泄の記録をとり、排泄の習慣やパターンを把握してトイレ誘導を行なっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	朝食時に牛乳をお出したり、排便の有無をチェックし、排便がない日が続いていたら、水分を多く摂ったり、歩行してみるように声かけしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	職員の配置からリスク管理のため夜間の入浴はおこなっていません。日中の入浴で、一人での入浴が可能な方には希望を聞いています。	一人ひとりの希望を聞いて入浴の支援を行っている。肌が乾燥しないような効果のある入浴剤を使用している。週2回以上は入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ご本人の希望に合わせ、状況に応じて休息していただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	くすりの説明書を読んで副作用など理解するように努めています。変更時には伝達事項を伝えて服用後の変化など確認するようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	その人にあった役割や仕事をお願いするようにしています。掃除・食事の準備・洗濯物たたみ・ゴミ捨て・パズルなどを行っています。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	気候の良い時期には散歩・食材の買い物へ出かけています。車が使用出来るときはドライブに出かけています。	日常的に散歩や買い物に出かけている。外気浴も行っている。月1～2回はドライブに出かける事もある。医療ケアに通われる利用者もいる。	日常外出が少なくならぬよう、一層の工夫が望まれる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ほとんど使用されていない状態ですが、希望される方には少額を所持していただいています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	理解できる方が少なく難しいですが、行える方には支援しています。			
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室やトイレの場所がわかりやすいように貼紙をしたり、季節にあった壁の飾りをしています。調理の音や匂いがしています。	オープンキッチンや畳敷きの部分もあるリビングは、明るく程よい広さもあり、落ち着いた家具が配置されている。行事の写真や手作りの作品が飾られ、居室、トイレ等わかり易く表示されている。料理の音や匂いが漂う中、談笑したり手作業などをして、くつろいで楽しく過ごすことが出来る場所となっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	廊下に置いているイスに一人で座ってゆっくりしたり入居者さん同士で話しをしていることがあります。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室は、入居者様ที่ใช้慣れた物・好みの物を御家族に持ってきていただき、本人が居心地良く過ごせるように心がけています。	空調管理の行き届いた明るく清潔な居室が用意されている。利用者は家具や使い慣れた日用品を持ち込み思い思いの飾り付けをして、その人らしく過ごす事が出来る。各居室はベランダも付いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かせるように心がけています。			

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

3 サービス評価の実施と活用状況

事業所の外部評価の実施と活用状況について振り返ります。
「目標達成プラン」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活用状況についての振り返り】

実施段階		取り組んだ内容 (↓該当するものすべてに○印)	
1	サービス評価の事前準備	<input type="radio"/>	① 運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		<input type="radio"/>	② 利用者へのサービス評価について説明した
		<input type="radio"/>	③ 利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
		<input type="radio"/>	④ 運営推進会議でサービス評価を説明するとともに、どのように評価機関を選択したかについて報告した
		<input type="radio"/>	⑤ その他（ ）
2	自己評価の実施	<input type="radio"/>	① 自己評価を職員全員が実施した
		<input type="radio"/>	② 前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		<input type="radio"/>	③ 自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		<input type="radio"/>	④ 評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
		<input type="radio"/>	⑤ その他（ ）
3	外部評価（訪問調査当日）	<input type="radio"/>	① 普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		<input type="radio"/>	② 評価項目のねらいを踏まえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		<input type="radio"/>	③ 対話から、事業所が努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
		<input type="radio"/>	④ その他（ ）
4	評価結果（自己評価、外部評価）の公開	<input type="radio"/>	① 運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		<input type="radio"/>	② 利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="radio"/>	③ 市町へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
		<input type="radio"/>	④ 運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="radio"/>	⑤ その他（ ）
5	サービス評価の活用	<input type="radio"/>	① 職員全員で次のステップに向けた話し合い、「目標達成プラン」を作成した
		<input type="radio"/>	② 「目標達成プラン」を利用者、利用者家族や運営推進会議へ説明し、協力やモニター依頼した（する）
		<input type="radio"/>	③ 「目標達成プラン」を市町へ説明し提出した（する）
		<input type="radio"/>	④ 「目標達成プラン」に則り、目標を目指して取り組んだ（取り組む）
		<input type="radio"/>	⑤ その他（ ）

2 目標達成計画

事業所 グループホーム ハーモニー広島西

作成日 平成 24年 8月 18日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価をもとに職員一同で次のステップへ向けた取り組み目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎにならないよう、事業所の現状に合わせた取り組み課題を取り上げ、優先順位を決め目標達成に向けた具体的な取り組み内容を記入してください。

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		町内会に加入していないために地域と交流が少ない	地域の一員として地域との交流を深めていく	町内会に加入したり、地域の行事に参加していく	1年
2		災害時に地域の方に協力してもらえない体制ができていない	災害時に協力してもらえるような体制を整える	近隣の方に災害時の時に協力してもらえるようお願いしたり、避難訓練への参加を呼びかける	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

NPOインタッチサービス広島